



学校の将来を考える

昨今の少子高齢化の流れは村内の学校にも影響を与えており、小中学校では年々児童生徒が減少しています。ここでは、関係者が検討を重ねてきた「将来の学校のあり方」についてお知らせします。

▶問合せ 教育委員会事務局 ☎24-5120

写真は右から、大河原小学校、東小学校、南小学校、昭和中学校

学校にも少子化の影響

現在、昭和村の小学校は東小学校、南小学校、大河原小学校の3校があり、子どもたちが日々学んでいます。また、昭和中学校は、平成2年に当時の東中学校と南中学校が統合されて開校しており、各校とも長年地域とともに歩んできました。

そんな中、現在の日本は少子高齢化社会を迎え、村でも児童生徒数が年々減少しています。平成3年から令和3年までの30年間でみると半減しており、クラス数では各学年とも1クラスになっています。大河原小学校では2つ以上の学年からなる複式学級もあります。このため、教育活動や学校運営に支障をきたす状況になりつつあり、今後の学校の規模の適正化を考えることが課題となってきました。

校舎の改修にも課題

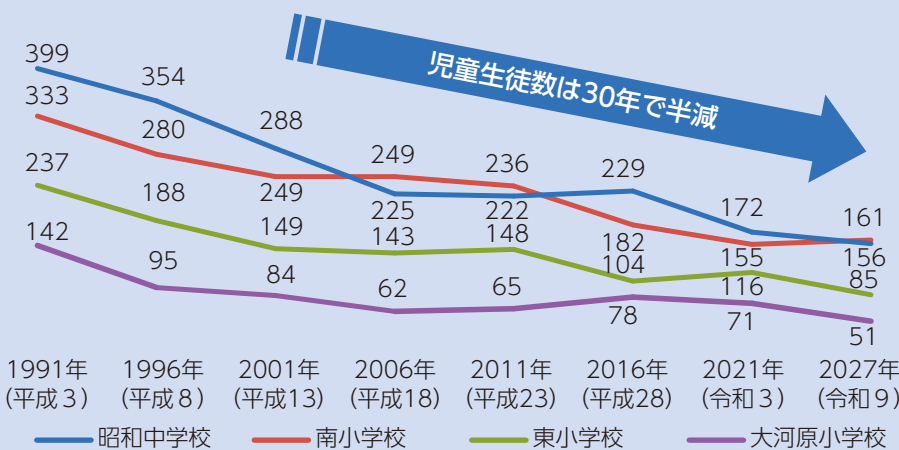
また、学校施設については、校舎や体育館をはじめ敷地内にさまざまな設備があります。中でも、校舎は鉄筋コンクリート造りのため、耐用年数はおおむね60年程度とされていますが、その間、経年劣化により補修や改修する必要があります。大河原小学校では昭和55年の建築後、

統計データ Statistics

これからの学校は？

児童生徒数の推移

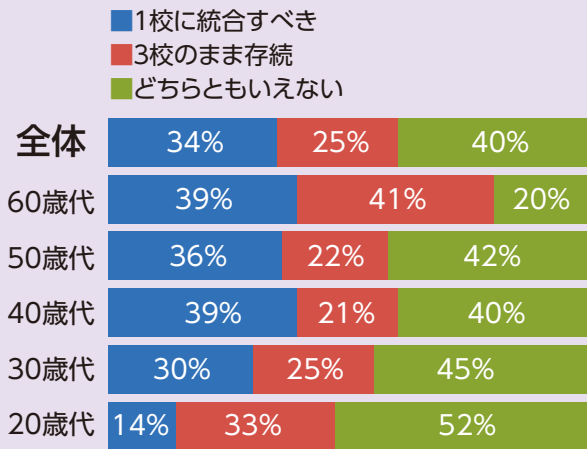
村内の児童生徒数は、30年前の平成3年度は4校合計で1,111人でした。現在は514人となっており、半減(54%)しています。さらに令和9年には61人の減少が見込まれます。



子育て世代アンケート結果 Parents' survey

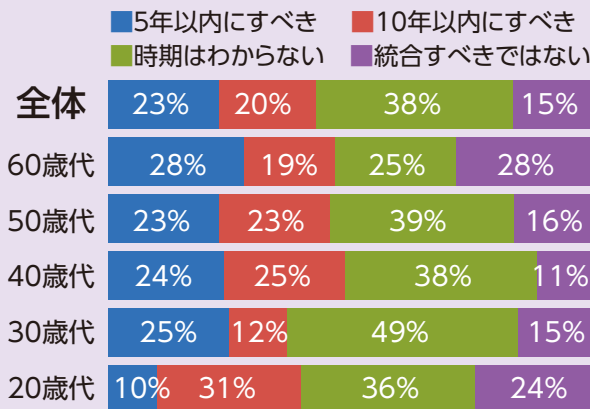
学校は現状維持？ 統合？

小学校を統合すべきだと思いますか？



※無回答があったため、100%にならない場合があります。

統合するならいつ頃がいいと思いますか？



※無回答があったため、100%にならない場合があります。

個別のご意見 (件数が多いもの)

- ・統合して人数が多い方が、競争心や協調性が高まる。
- ・児童数の減少のため、統合せずに少人数は心配。
- ・統合は通学方法に不安や問題がある。
- ・現状の方がきめ細かなフォローができる。

検討委員会での協議

平成27年に大規模改修を行っていますが、南小学校が平成6年、東小学校が平成8年に建てられて築30年を控えています。また、長寿命化するには築20年の簡易改修や、築40年の大規模改修に備える必要があります。平成2年に建てられた昭和中学校も同様の課題があります。

こうした状況を踏まえ、村は「学校の在り方調査・研究委員会」を平成30年に立ち上げ、令和元年8月には、議会議員や教育委員、各学校関係者やPTA役員などからなる「学

アンケート結果と展望

学校の在り方検討委員会」を組織。今後の学校の方向性について幅広く意見を交わす中で、学校体制を現状のまま維持していくか、統合すべきかといった声が聞かれました。ところが、令和2年1月頃から発生し拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、委員会活動が大幅に制約されることになったこともあり、子育て世帯に向けて「現状維持」か「統合」かを問うアンケート調査を実施しました。

子育て世帯向けのアンケート調査

とそれを踏まえて開催した検討委員会の協議の結果、子どもたちが楽しく学び、集団生活の中から豊かな人間関係を築いていくとともに、保護者の学校運営への参加負担を軽減するためにも小学校は統合すべきであるとの結論に至りました。

また、統合の時期については、統合校の場所や新設・既存の校舎の改修、通学の手段、そして費用など、さらに議論が必要な問題があることから限定しないものの、子どもたちの人数が今後さらに減少していくことから、なるべく早期に計画を立てて実現していくことが望まれます。

学校施設の維持

学校施設の要となる校舎は、鉄筋コンクリート造りで耐用年数があるため、完成から30年で大規模改修が、また、60年後には建替が必要となります。東小学校、南小学校、昭和中学校は大規模改修が必要となってきます。

